



一語一会

Ichigo

Ichie

石田慶和 *Ishida Yoshikazu*

本願寺出版社

後生ごしょうの一大事いちだいじというものは
 そんなもんじゃありませんよ

一里半の道を歩いて聴聞ちようもんに行こうとした嫁が、駅で一週間近い出張から帰ってきた夫に出会い、ついて帰ってきた時に、義父の言った言葉。

やさしいやさしいお義父とうさんでした。聴聞を始める前は、ひとことも「お寺に参れ」と言わなかった。しかし、ひとたび聴聞が始まったなら、一里半の道を往復させて、「後生の一大事とはそんなもんじゃありませんよ」と言ったというのです。

誰にでも言える言葉ではありません。いつでも言える言葉でもありません。しかしこれがほんとう

うのお慈悲の言葉です。

仏さまの叱咤しつたげ激励げきが

なかったなら、私

たちは仏さま

のお心にふれ

ることはでき

ません。この

言葉は仏さま

からでたもの

です。



後生の一大事 いのちのあらんかぎり
 ゆだんあるまじきこと

蓮如上人に親しくご教化をうけた赤尾の道宗が「文亀元年十二月二十四日
 思立候条」として書き残した「心得二十一条」の冒頭にこの言葉があります。

近ごろは「後生」という言葉をきらって、いろいろ言い換えようとする人
 があるようですが、私たちの命が明日をも知れないことはいつの時代でも変
 わりのないことです。そういう死の不安から目をそらそうとすることは、真
 摯しんに生きようとする態度ではありません。道宗さんのこの言葉はそれを言お
 うとしているのです。

諸行無常や無常迅速という言葉は、私たちにとって、決して無縁の言葉で
 はありません。「朝あしたには紅顔こうがんありて夕ゆふには白骨はくこつとなれる身み」ということは、現
 代の人間にとっても否定のしようのない事実です。

仏法ぶつぽうには明日あしたと申すことあるまじく候そうらふ
 仏法ぶつぽうのことはいそげいそげと仰おほせられ候そうらふなり。

(『蓮如上人御一代記聞書』)

赤尾の道宗が生涯信順した蓮如上人の『御一代記聞書』にこの言葉があり
 ます。

蓮如上人のおっしゃる仏法とは「信心決定しんじんけつじよ」のことで、この世のことは
 「出る息入る息をまたぬ」のがつねであるから「いそげいそげ」とおっしゃる
 のです。道宗は、蓮如上人が「油断あるまじきことと存じ候へ」とおっしゃ